



第57回「おかねの作文」コンクール

秀作

『お金を稼ぐ』ということとは

静岡県・静岡市立蒲原中学校 1年 大村 瑠袈

母の日に姉とお小遣いを出し合って花を買ってプレゼントした。私の家では毎月決まった額のお小遣いをもたらすのではなく、遊びに行く時や必要な時に、その都度それに見合った額のお小遣いをもたらしている。その時の残金やお年玉からプレゼント代を出した。母はとても喜んでくれ、私もうれしかったのだが、心にひっかかるものがあった。それは、プレゼントを買ったお金は、私のお金であって私のお金ではないということだ。遊びに行った時の残金やお年玉は、もともとは父母や祖父母からもらったお金で、私の力で得たお金ではない。『お金を稼ぐ』とはどういうことなのだろう。

私の父は、魚を加工しみりん漬けや西京漬けなどの商品をつくり出荷する仕事をしている。祖父がつくった会社だ。この夏休みに私は、職場体験をさせてもらえることになった。

当日の朝、少し緊張しながら身支度を整えて、姉と一緒に工場へ入った。何度か手伝いをしたことのある姉は、働いているおばさん達に元気にあいさつをして、雑談をしながら仕事にとりかかった。私は緊張して、教えてもらった仕事を間違えないようにやることだけで精一杯。おばさん達が気にして話しかけてくれるが、笑顔で答える余裕はなかった。姉は午後も手伝いに行くと言っていたけれど、私は午前だけで終わりにした。競泳をやっている私は体力には自信があったが、何とも言えない疲れにおそわれて、昼寝までしてしまった。

働いてお金を稼ぐって本当に大変だ。私がわずか数時間で根を上げた仕事を、おばさん達は毎日朝から晩までやっているのだ。仕事の大変さもあるが、人間関係など気を配らなければならないこともあるだろう。今回の私のように、疲れたから午後はもう行かない、なんてことはできないのだ。私は今まで、どれだけ家族に甘えていたか思い知らされた。お金を稼ぐ大変さも価値もわからずに、「明日友達と遊びに行くからお金ちょうだい。3,000円くらいで足りるかな。」な

んて言っていた。親からお小遣いをもらうことは当たり前で、感謝の気持ちもなかった。私は自分がとてもはずかしく思えた。

職場体験をして思ったことを母に話したら、母は笑って、「いい経験になったね。でも遊びに行く3,000円は無駄なお金ではないよ。友達と遊びに行くことも大切な経験だし、楽しむことは心や生活を豊かにするから。瑠袈が心豊かに育つために必要なお金は、お父さんやお母にとって無駄なお金ではないんだよ。」と言った。私は父母からとても大切にされていると感じ、感謝とともにうれしく思った。

私は将来、保育士になりたい。魚の加工とは全く違う仕事だけど、どんな仕事も『お金を稼ぐ』という点は同じだ。そして『お金を稼ぐ』ことは、『その仕事に責任を持つ』ということだと思う。途中で投げ出したりいい加減に仕事をしたりすれば、必ず誰かに迷惑がかかる。私は将来働けるようになったら、どんな仕事でも責任を持ってやりたい。そして、稼いだお金は、自分や家族、身近な人の心が幸せになるような遣い方をしたい。人の心を豊かにしたり動かしたりするパワーを持っているお金って、すごい！と思った。